

令和5年度 府中市立府中第三小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	- 文章を読んで、その内容を正しく理解する力が弱い。 「～は」「～を」「～へ」や促音・拗音・撥音の記述が定着していない。 - 文章を書く力が弱い。 - 大切なことを落とさずに聞く力が弱い。	- 文章を読むうえで、大切な言葉を丸で囲んだり、ラインを引いたりして、内容を正しく理解できるようにする。 - 年間を通して、プリント・作文・日記に取り組み、定着を図る。 - 書く活動に入る前に、相手や目的を明確にし、意欲を高める。 - 聞き手が質問や感想を伝える時間を設け、話し手が何を伝えたいのかを考えながら聞けるようにする。		
算数	- 計算力は個人差が大きく、指を使って計算する児童がいる。 - 文章問題の内容把握、正しい立式、自分の考えをもつことが難しい児童がいる。 - 自分の考えの言い方や伝え方が分からないことがある。	5や10のまとまりを意識させて、計算カードやワークプリントなどを使って、繰り返し計算問題の習熟に取り組ませる。 - eライブラリーのドリルを活用する。 - 絵や図を使って問題文を視覚化し、ブロック操作を通して考えさせる。文中のキーワードに線を引かせ、加減場面をつかませて立式させる。 - 式や答え、図のかき方などを児童のノートと同じマスを使って、例示する。答え方、理由の言い方など話型を指導する。 - 大型テレビに児童の考えた図や絵を出し共有していく。		
生活	意欲はあるが、発見カードに何を描いたらよいか戸惑う児童が多い。	- 観察するポイントを説明し、黒板等にもポイントを提示する。 - 黒板に教師が手本を提示して、具体的なイメージがもてるように支援する。		
音楽	鍵盤ハーモニカの指使いが正確でない。	- 全体で指使いを確認する。（「ド」の位置など基本のことから指導する。） - 個別対応で教えたり、指ごとに分けてシールを貼ったりする。		
図画工作	手先を上手く使えず、のりとはさみなど、道具の扱いを苦手としている児童が多い。	- のり、はさみの使い方を基本から丁寧に説明し、活動時間を十分に取る。 - 口頭での指示理解が難しい児童のために、作業工程を大型テレビに映し、スモールステップで提示しながら指導する（ICT機器の活用）。		
体育	運動体験が少ないため、身体の部位を意識して動かすことができない児童が多い。	- 身体の様々な部分や道具を使った運動遊びを多く取り入れる。 - 友達と共に楽しく身体を動かす活動を通して、運動に親しませる。		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。